

宇喜多家史談会会報

第 96 号
令和7年10月13日

宇喜多家史談会
〒700-0826
岡山市北区磨屋町六一二八
光珍寺気付

高野山（直家公供養塔）訪問記

杉本（平井） 弘江

私は、岡山県津山市の出身で、実家には平井八郎左衛門（春如院月門宗伯居士）と浮田松姫（春教院見禪定門大姉）の御位牌があり、美作市万善にはお墓と住居跡、近くの黒見山観音寺には供養塔があり、代々、おまつりしてきました。現在、御位牌は観音寺様で永代供養をしていただいています。このお二人は、関ヶ原の後、万善で隠遁生活を始めたとき、松姫様については、祖母からの口伝では直家公の娘、『美作市の民話』では秀家公の娘、平井氏事蹟考（一）では浮田官兵衛宗勝の娘とされており、正確なことがわかれば…と、思っ、史談会に入会させていただいております。

三年前に母が亡くなつてから、八月の祥月命日には高野山におまいりしており、今年七月に、「高野山奥の院 宇喜多」と検索していたら、四月に高野山奥の院で直家公の供養塔を見つけたと書かれた岩堀元樹氏のフェイスブックの書き込みを見つけました。

これまで奥の院には直家公や秀家公の墓所や供養塔は見つかっていないとされていて、金剛峯寺や観光協会・高野山大学等にお尋ねしても、わかりませんという回答でした。厚かましく岩堀様に連絡をとり、詳しい場所を教えてくださいませんか…とお願いし、探しに行ってきました。

奥の院の中の橋から約二百メートルほどの橋側に戻った辺りで参道を挟んだ反対側には、秀家公とご縁があった薩摩島津家や石田三成の供養塔が並んでいる場所でした。供養塔を管理されていると思われる大圓院さん（木下住職）を訪ねたら、「うちの供養塔ではありません。」と言われ、資料のコピー（2）をくださいました。

寛政五（一九七三）年に描かれた『高野山奥院総絵図』は直家公の供養塔の場所に、宇喜田中納言と書かれています。その前の宝永四（一七〇七）年の『奥院絵図』には記載がなく、供養塔はこの間に作られたものと思われますが、昭和二（一九二七）年の『高野山奥院霊跡案内絵図』には記載がなくなっているのでこの間に移動または撤去されたものと思われます。また、宇喜多中納言の石塔は随心院の宿坊と記載されていますが、現在は西室院に統合されているとのこと、お訪ねした西室院の亀位卓阿住職も驚いて現地に来られ、高野山大学の木下浩良氏もお出でになり、石塔の形は時代的に間違いないと確認していただきました。今後、秀家公（中納言）の供養塔をお探することと直家公の供養塔をおまいりしていただきやすいように墓標を作りますと有り難いお話をいただきました。

ただ、私が本来、調べたかった松姫や高尾山城主で、関ヶ原の際の岡山城代だった浮田官兵衛宗勝の情報がありましたら、お教えいただけましたら幸いです。また、平井八郎左衛門は、播磨の赤松の出で、宇喜多直家公から西屋城の軍監として差遣されていた平井助之進利政（3）の長男で、こちらの情報もありましたらお願いします。平井助之進利政は、天正十（一五八二）年の西屋城の戦いの際に討死し、近くの梅本山観音寺にまつられているとされ、お寺の裏の山の中腹にある鏡野町文化財の上の坊が墓所と推定されています。母が